

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿 ユニット1すずらん		
所在地	北海道札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502801-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の一環として地区センターで行われているふれあいサロンへ参加し地域の方々との触れ合いを大切にしています。 ・毎年秋祭りを開催し地域の方がへも声かけ地域一体となり祭りを開催しています。 ・ご家族様のケアカンファレンスへの参加が定着しておりご利用者様も含め日々の暮らし、生活について話し合い共に協力してご利用者様を支えています。 ・介護スタッフだけではなく、看護師、事務スタッフ、調理スタッフが在沖しています。 ・児童館に遊びに行ったり、来たりしていただき児童館との交流も深めています。 ・往診医療機関との信頼関係との構築に努めています。 ・ホーム内研修、外部研修を実施し色々な分野での研修を行いスキルアップに努めています。 ・1年に一度事例研究発表会を行いケアの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「愛の家グループホーム札幌川沿」は、遠くに藻岩山などの山並みがそびえる自然豊かな静かな住宅地に立地している。地域のふれあいサロンに参加したり、児童館や高校生などと交流を深め、地域に根ざした事業所を目指して前向きに運営に取り組んでいる。管理者は計画的に内部研修を行いながら職員の資質向上を図り、個別支援を重視した細やかな支援を行っている。介護計画の実施状況モニタリング記録を毎週記載し、更新時には全職員が個別に評価を行うなど一人ひとりの利用者の介護計画をしっかりと理解しながら統一したケアを行っている。運営推進会議に家族が交代で参加したり、習い事が継続できるように送迎するなど、普段から家族と協力して利用者のよりよい生活を支えている。利用開始時に主治医が看取りについての説明を行い、利用者と家族が安心して過ごせるように協力医療機関と連携を深めている。利用者と一緒に食材やおやつを買いに出かけたり、雪まつり見学に出かけるなど年間を通して積極的に外出している。おやつにクッキーを焼いて食べることもある。排泄面では、それぞれの排泄パターンを把握しながら綿パンツへの移行を行い自立した生活ができるように取り組んでいる。毎月のお便りでは利用者の様子を詳細に伝えており、職員の細かな気配りは家族の安心感につながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて理念を唱和し確認、共有し実践に繋げている。	「地域の人々との交流を図り、家庭的で居心地の良い生活が送れるよう努めます」という地域密着型サービスを意識した事業所独自の理念を作成している。地域行事に参加する時に意識したり、課題が出た時に初心に戻り理念を再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物や行事、ふれあいサロンなどへ参加し地域との関わりを大切にしている。	児童館の子供達が来訪してゲームをしたり、進級・入学祝いに利用者と一緒に貼り絵などを制作してプレゼントしている。高校生のボランティアが訪れたり、事業所の秋祭りにチアダンスチームが来訪するなど積極的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて認知症への理解を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	細かい情報なども共有し意見やアドバイスを頂きサービスの質の向上に努めている。	活動報告やスライドによる利用者の日常報告、ケアプラン作成方法と留意点について説明している。地域包括支援センターの協力を得て地域役員に出席を依頼しているが、現状は難しい状況である。今後も継続して参加を働きかけていく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告などを通じ情報の共有をしている。	事故報告などで市役所を訪問することもあるが、殆ど電話での連絡が多くなっている。区役所に防災計画の作成について相談したこともある。保護課の担当者が来訪した時は、利用者の様子を伝えながら何かあれば相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い知識や理解を学んでいる。	採用時研修で身体拘束について学んでいる。年数回、全職員に「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した資料を配布して研修会を実施している。不適切な言葉かけがあれば、適切な言葉に言い換えるなど、本人や第三者が聞いて不快に感じる声かけをしないように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い知識や理解を学んでいる。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い知識や理解を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に細かな説明を行い納得されるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事などにご家族様の参加を仰ぎ意見交換の場等を設けている。	面会時やカンファレンスの機会に意向や要望、意見などを聞き取っている。内容に応じて「特記記録」用紙に個別に記録したり連絡ノートに記入して情報を共有している。毎月、生活や健康面を記載した個別のお便りを発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談などを行い提案や意見を聞き取り入れるように努力している。	ユニット会議などで個別ケアや業務改善などについて職員の意見や提案を聞き取り、ケアや運営に反映させている。職員は、普段から話しやすい雰囲気ですら直な意見が言いやすいと感じている。居室内の清掃方法について話し合ったこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より情報を共有して適示適切に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者より情報を共有して適示適切に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例検討会などを通じて外部の方との交流を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントへを行い入居後も安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは密に連絡をとり情報を交換しより良い関係性を作る努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の気持ち、ご家族様の気持ちを優先するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする、暮らしているという事を常に意識し関わりを大切にケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスへの参加をはじめスタッフもご家族様もチームの一員として関わりや絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人とのランチや馴染みに場所へ行く支援などを行っている。	家族支援の下、習い事を継続して友人と一緒に食事をしたり、職場関係や近所に住んでいた方が訪ねて来る利用者もいる。馴染みの美容室の方が訪問美容で来訪する方もいる。職員と一緒に外食したり、家族とお墓参りなどに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人、お一人の個性を大切に利用者様同士がより良い関係で生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談して頂ける環境に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から思いを聴き出し共有しケアに結び付けられる様支援している。	殆ど会話から思いや意向を把握することができるが、難しい時は表情や家族からの情報で把握している。センター方式を活用し、随時情報を追記しながら定期的に書類を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しこれまでの生活を出来る限り知りケアに活かせる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行い介護計画に活かし現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様のカンファレンスへの参加やスタッフ全員でモニタリングし納得いくまで話し合っています。	家族参加のケアカンファレンスや1週間毎の実施状況モニタリング記録、全職員の個別評価を基に3か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画の短期目標に沿って変化や課題を日々の記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し変化があればミニカンファレンスでも議題にし日々のケアに活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人、お一人のニーズに合わせて柔軟に対応できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への散歩や買い物、別ユニットなどを活用しその人らしさを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様対応とし相談しながら適切な医療機関へ受診できるよう支援しています。	かかりつけ医や専門医を家族と受診する時は、健康状態を口頭や書面で伝えている。診察結果について、担当医師から電話が来ることもある。受診記録は個別に「特記記録」用紙に記入している。	

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回勤務しており勤務していない時も緊急時は電話などで相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は出来る限りお見舞いへ行き情報を収集し早期退院への支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階に応じ看取りへの相談は何度も行い利用者様、ご家族様が悔いの残らないようまた納得のいくまで話し合い終末期への支援をしています。	「重度化した場合の対応に係る指針」と「看取り介護に係る指針」を作成し、利用開始時に説明している。入居時に、協力医療機関の医師が看取りについて説明し家族の意向を確認している。継続的な医療行為が無ければ看取りにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い知識や理解を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い火災や災害時に備え訓練しています。	消防署の協力の下に夜間の火災を想定した避難訓練を行い、屋間の火災を想定した自主訓練も実施している。災害備蓄品を整備し、職員は救急救命訓練講習も受講している。地域との協力体制を整えるには今後も時間を要する状況である。	地震災害などを想定して、危険箇所の確認やケア別の対応などについて話し合うよう期待したい。運営推進会議時などに避難訓練を実施し、地域住民以外との連携方法などについて検討するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけなど意識し人生の大先輩として常に尊敬の気持ちを持つよう心掛けています。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本に、家族や本人の希望で愛称の場合もある。申送りは部屋番号で行い、個人名を特定できない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺ったりしながら自己表現できる環境作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別家ケアを重点的に意識しその人らしい日常を送れる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人、お一人のご希望にあった身だしなみの支援をさせていただいています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなど一緒に行いながら好みを聴いたりしながら関わりを大切にしています。	本部の栄養士が作成した献立を事業所の調理担当職員が作っている。外食や出前、イベントなどは内容を変更している。手作りおやつや、洋菓子店で買って来るおやつなどを毎月楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のとれない方への個別対応は医師や看護師に相談し水分もゼリーなど工夫しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内のケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレへの声かけなどお一人、お一人あった排泄パターンを把握し支援しています。	全員の排泄を記録してパターンを把握している。リハビリパンツの利用者が布パンツにパッド利用だけになることもあり、適切なトイレ誘導で利用者の自信回復につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて排便を把握し医師の指導のもと個別に対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日などは決まっていますがお一人、お一人が間隔が空かない様またゆっくり楽しんで入浴できるよう支援しています。	毎日午後の時間帯に入浴し、一人ずつ浴槽の湯を交換している。座位が保てる限り湯船に浸かり、歌や会話を楽しみながら清潔が維持できるように支援している。希望があれば同性介助の対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わりにより心地よい疲労感を味わっていただき夜間の安眠へと繋がる用支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医と連携し薬情の把握を行い疑問に感じたことは相談しお一人、お一人にあった薬になるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活はマンネリ化しない様役割や喜びを持って生活出来る様工夫しながら支援しています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はご家族様のご協力の元支援しています。外出行事はスタッフの人数が確保できる時は積極的に行っています。	事業所前の駐車場や中庭の花を見ながら散歩したり、畑でトマトを収穫している。週一回程度は近隣の公園まで歩いている。駒岡保養センター、藻岩山ドライブ、冬季も雪まつり見学やショッピングセンターにおやつを買いに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際にご本人様のお金にて精算したりお一人、お一人あった支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など要望に応じ対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く過ごせる様日々の掃除を徹底して行っています。また季節に合わせて装飾を変え季節感を感じて頂ける様な工夫をしています。	リビングは両サイドが大きな窓で、明るく開放感がある造りになっている。トイレと洗面は4か所あり、安心して利用できる。リビングのソファや廊下の端に座れるスペースがあり、安心して過ごしている。ピアノ、季節の飾り、手作りカレンダー、利用者の作品など、自由に暮らせる心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士一緒に過ごせる様な工夫をしたり居室でお話しできるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使いなれた物を持参頂き安心して生活ができるよう支援しています。	馴染みの家具やテレビ、洗濯物かけ、ピアノ、ぬいぐるみなどを自宅から持って来ている。自分の作品の習字や切り絵などを飾り、自分らしく安心して過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることには暖かく見守り残存機能を活かせるよう支援しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿 ユニット2はまなす		
所在地	北海道札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2015.022_kan=true&JigyosyoCd=0170502801-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の一環として地区センターで行われているふれあいサロンへ参加し地域の方々との触れ合いを大切にしています。 ・毎年秋祭りを開催し地域の方がへも声かけ地域一体となり祭りを開催しています。 ・ご家族様のケアカンファレンスへの参加が定着しておりご利用者様も含め日々の暮らし、生活について話し合い共に協力してご利用者様を支えています。 ・介護スタッフだけではなく、看護師、事務スタッフ、調理スタッフが在沖しています。 ・児童館に遊びに行ったり、来たりしていただき児童館との交流も深めています。 ・往診医療機関との信頼関係との構築に努めています。 ・ホーム内研修、外部研修を実施し色々な分野での研修を行いスキルアップに努めています。 ・1年に一度事例研究発表会を行いケアの質の向上に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼では会社・ホーム・ユニットの理念を唱和しスタッフ全員で周知し実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流を深められるよう地区センターでの、ふれあいサロンや児童会館との交流をしていましたが、以前に比べ参加回数が減ってしまっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にボランティア等で来て頂き利用者様と触れ合って頂く事で認知症を理解して頂き地域に向けて発信していける様に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みや日常の様子等を報告し、意見、要望を伺っています。また会議録を通じてスタッフ全員で情報共有を行いサービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が管理者連絡会等に参加し、情報共有を行いそこで得た情報をケアに活かし質の向上に取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についてホーム内研修のテーマとして掲げ、全スタッフが共通の認識を持ち身体拘束のないケアに取り組んでいます。 夜間以外、玄関、フロアは開放、開錠されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修、ユニット会議等で学び理解する事で、共通の認識を持ち防止に努めています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や会議などを通じて学ぶ機会を設け、ケアの質の向上、スキルアップを図れるような体制を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居相談を始め、契約時にも事業所の取組みや考え方を時間をかけて説明し、十分に納得した上で契約して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見に関しては窓口を設置しています。また年に一度ご家族様アンケートを実施し、集計結果を会議で話し合い改善に努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、スタッフアンケートを実施しています。また個人面談も行い会議での意見交換も行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足が続き職場環境の悪化もあるが、ホーム全体で個々のスタッフの仕事量が過剰にならないように助け合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を行っています。また外部研修についても希望者が参加しやすい環境づくりに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて同業者との交流、情報交換を積極的に図りサービスの質の向上に繋げています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で心身の状態、生活習慣を聞いて入居後に安心した生活、信頼関係が築けるよう全スタッフで周知しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学や、契約の際に、ホームでの生活について時間をかけて説明し、要望をお聞きしてまます。何度でも見学等に来ていただく事で、不安なくホーム生活での始められるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人との事前アセスメント時や、見学等でご家族の話を伺った際に、他のサービスの利用を含めた対応をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感する気持ち、思いやりの気持ちを忘れず人生の大先輩として、ご本人の尊厳を尊重したケアを行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、カンファレンス時等、話す機会を多くとり信頼関係を築き、ご家族の絆を大切にしながら共に支え合っていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで築いてきた関係を維持できるよう、ご家族や知人の方には自由に面会にきて頂き、ご本人様の生活習慣を尊重したケアの実践に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の流動的な関係を随時把握し、ユニット会議の議題にあげたり、日々スタッフ同士で話し合い、一人ひとりが孤立せずに関わり合えるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもご家族から相談の電話等があれば対応し、これまでの関係を変えることなく経過をフォローするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で、その方の思いや心の内を確認し、過ごしやすい環境を設けています。またご家族様面会時やケアカンファレンス時などで情報を得る様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様との話し合いの中や行動等から馴染みの暮らし方を模索したりスタッフ間で情報共有し把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを大切に、心身の状態の把握に努めセンター方式の活用も行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ミニカンファレンスを行い日々の生活で感じた事、気付いた事などを意見交換し、各担当者を中心に介護計画作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の言葉、表情、事実をそのまま記録に書き、スタッフ間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と連携を図り、状況に応じ通院や送迎等対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センターのレクリエーションに参加、買い物や外出などでも地域の資源を活用させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診の他、利用前からのかかりつけの病院への受診を受けられるよう、ご家族と共に支援しています。また日々変化があった場合は24時間体制で常に連携を図っています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時には日常の健康管理、体調の変化について情報を共有し、対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを記入し、ご本人の状態や経過を医療機関に提供しています。またスタッフがご見舞いに行ったり、ご家族と連絡を取り合う事で入院の経過について情報を共有し、退院後の生活の継続がスムーズに行くよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う確認書を作成し、ご本人様、ご家族様の意向を踏まえた上で最大限に出来るケアを話合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはホーム内研修を行い、意識を高め緊急時マニュアルは常に所定の位置に置き、各自確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年に数回昼夜の火災を想定した避難訓練を行っています。全入居者の避難や、消火器の実践を行っています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様、の意向、人格等を尊重しプライバシーに留意し個人に合ったペースで過ごして頂けるよう対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝え自己決定できるよう環境、信頼関係を築き、希望に添えるケアを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日その時の状況に合わせて日々過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご本人様、が選択できるような環境を整え、整容の声掛けや状況に応じお手伝いしています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態に変えたり、食があまり進まない時には好きな物を提供しています。また、盛り付けや食器洗いも行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない場合には、好みの飲み物やゼリー等を提供し、食事量が少ない時には往診医に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの声かけ、見守りを行っています。また必要に応じて歯科の往診に来て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チャート表を活用する事で、その人に合わせたタイミングで声かけ、介助を行っています。またリハビリパンツやオムツを安易に使用せず、布パンツにするにはどうすれば良いかユニット会議等で話し合っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに添ってバランスを保っており、簡単な運動や水分補給を心掛け往診医の指示のもと下剤調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間、曜日などを決めず自由に入浴できる事を伝え、入浴が嫌いな方でも、ご本人様、の負担にならない様タイミングをみて声掛けや2人介助を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて安心して休息できる環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情をまとめ、リビングにて管理することでユニットのスタッフが薬の目的や副作用を理解できるようにしています。下剤などに関して、往診先と相談し、ご本人の状況に合わせて量を調整しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔馴染みの趣味を楽しんでいる方はもちろん、特に趣味のない方でも簡単な作業を手伝って頂き役割を持って頂く事で楽しみを見出しています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2はまなす)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮しながら日常の買い物、ドライブ、地域のイベントなどに参加しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に確認し、財布を持っている方もおり、外出先で支払をして頂く機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、ご家族から電話を受けたり、かけたりできるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも自由に往来できる空間を確保しています。また居室は風通りが良く暖かい環境作り、利用者様がくつろげる空間にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様、のペース、生活リズムを大切に、気の合った仲間作りが出来るよう対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使用してきた家具や品物を持ってきて頂いてます。また安全面を考慮し、その人らしい部屋になるようご本人やご家族と相談しながら工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な個所には衝撃緩和素材を貼り、物を整理するなど安全面に配慮しています。1, 2階スタッフが協力して声を掛け合い、ご利用者の状況を把握できるように努めています。		

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム札幌川沿

作成日：平成 30年 2月 26日

市町村受理日：平成 30年 2月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議へのご家族様の参加が少ない。	多くのご家族様への参加を促していく。	文章での周知や面会時への声かけを行う。	半年
2		個別に外出する機会が少ない。	全利用者様の思いをかなえていく。	夢かなえます。の企画をする。	一年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。